

★ 小 岩 井 自 治 会 ★



1. 沿革

昭和 33 年に地域内の住民（65 戸）により小岩井駅前部落会が設立された。昭和 41 年には部落自治会が発足し、昭和 44 年に現在の小岩井自治会となった（87 戸）。平成 23 年 9 月末現在、世帯数は 822、人口は 2,135 人である。

2. 地域の概要

当地域はもともと明治 24 年に開設された小岩井農場の一角にあった。戦後の農地改革により解放された土地は、昭和 40 年代に土地改良事業が行われ現在のような農地に整備された。一方、全国的な土地ブームは当地域にも押し寄せ、民間の不動産会社が宅地開発をさかんに進め、50 年代から住宅が急速に増加した。

3. 自治会活動の 4 つの柱

(1) 安全と安心を守る活動

地域内に設置されている防犯灯の点検・修繕・交換を行っている（年間予算 25 万円）。自主防災会を設置し非常災害時に備え活動しており、東日本大震災の際は高齢者一人世帯の安否確認を行うとともにコミセンに避難所を設置し炊き出しを行い世話した。

(2) 生活の便宜を図る活動

年 4 回、自治会報「もりっこ」を発行して身近な情報を住民に伝えている。夏には住民総出で行う主要道路の草刈り行事が定着している。

(3) 福利厚生を図る活動

ファミリーハイキング、スポーツ交流会など親睦を目的としたレクリエーション活動を行っている。村内の自治会対抗のスポーツ大会には積極的に参加し、村民体育祭では平成 22 年度に総合優勝の栄誉に輝いた。

自治会の二大行事といわれるのは夏まつりと文化祭である。

夏まつりはさんさ踊り、ゲーム、抽選会、出店など多彩なプログラムで住民を呼び寄せている。また、地元企業からの協賛も多数いただいている。毎年 11 月に行われる文化祭は昭和 61 年から始められ実に四半世紀を越えて開催されている。日頃、趣味や教養として取り組んでいる絵画・写真・書道・手芸・工芸などの作品が出展され相互に鑑賞し住民同士が親しく交流している。小・中学生、保育園児のコーナーも来場者の目を楽しませている。

(4) 相互扶助を図る活動

地域福祉活動として民生児童委員と連携しながら事業を推進している。

①いきいきサロン

村の介護予防事業の支援を受けながら自治会が中心になって「いきいきクラブ」を運営し、高齢者が多数参加している。運営に当たっては、婦人部、老人クラブ、保健推進員、食生活改善推進員、運動普及推進員、サポーターなどの団体や個人に協力をいただいている。また、岩手看護短大と連携し健康教室を組み込んでいる。このほかに「月曜サロン」、「からおけサロン」が行われている。

②スノーバスターズ

中学生の社会参加活動の一環として行っている。一人暮らしの高齢者宅を訪れ住居の周りの除雪を行っている。

③スクールガード

地域内に学校がないため、小学生（120 名）・中学生（70 名）が隣り駅の大釜まで電車で通学しており、10 人のスクールガードが子どもを見守っている。

4. 今後の展望

当地域では、「小岩井駅の駅舎改築並びに駅周辺の整備」、「教育環境の整備（小学校の建設、生涯学習施設の整備）」、「越前堰の改修」、「風林橋の改修」、「下水道の整備」の 5 項目が長年の課題となっている。これらの課題解決に当たって小岩井地域まちづくり推進委員会が果たしている役割が大きい。

一方、少子高齢化や核家族化の進行、昨今の予想もしない自然災害などの現実を目の当たりにして住民同士の強固なつながりの大切さをだれもが実感しており、「つながり、絆、支え合い」を自治会テーマとしている。幸い、当地域では隣近所が声を掛け合い支え合っており、また、地域全体にわたる趣味グループやサークル活動が存在することは心強い。子育て世代は子供会育成会の活動に熱心に取り組んでおり互いに親交を深めており、この延長上に将来の自治会活動の担い手としての役割が期待される。

